

小児がん中央機関アドバイザーボード
2017年1月25日

小児がん中央機関 医療者育成事業

看護部門

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター看護部

研修一覧

2016年 2月13日	小児脳腫瘍多職種診療チーム研修
2016年 9月14日	小児がん看護研修①
2016年11月 5日	小児がん長期フォローアップ研修
2016年11月24日～25日	看護師研修(国立がん研究センター)
2017年 1月14日	小児がん看護研修②

看護師研修（国立がん研究センター）

1. 研修の目標

- ・造血幹細胞移植患者の入院から退院後のフォロー体制等を見学し、国立成育医療研究センターにおけるフォローアップの体制の充実を図る。
- ・造血幹細胞移植看護を含め小児がん看護の教育プログラムを作成する。

2. 研修日時：平成28年11月24日(木)・25日(金) 8時30分～17時15分

3. 研修場所：国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院

12A病棟（成人・小児病棟）、12B病棟（造血幹細胞移植病棟）

4. 研修受講者：8階西病棟看護師2名（経験年数10年目、3年目）

5. 今後の課題：別紙

平成28年度 小児がん看護研修①

研修目的

1. 小児がん看護に必要な基本的知識・技能を習得し、主体的に実践できる人材を育成する
2. 関東・甲信越ブロックにおける小児がん看護の連携を強化する

研修目標

1. 小児がんの特徴や最新の動向について知る
2. 小児がんの治療概論、支持療法について説明できる
3. 小児がん患者の看護の概論を理解できる
4. 小児がん看護の現状について情報交換できる

研修日時：平成28年9月24日（土） 9:55～17:00

研修場所：国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

参加者：26施設、32名

職種：看護師（29名）、その他3名（ソーシャルワーカー、心理士）

小児がん看護研修① プログラム

時間	内容
9:55～10:15	講義「小児がん対策、疫学、最新の動向」 講師：国立成育医療研究センター 小児がんセンター センター長 松本 公一
10:15～12:00	講義「小児がんの代表的疾患と治療 概論」 講師：国立成育医療研究センター 小児がんセンター センター長 松本 公一
13:00～14:00	講義「小児がん看護」 講師：国立成育医療研究センター 看護師 柴田 映子
14:00～15:00	講義「小児がんの化学療法と症状マネジメント」 講師：国立成育医療研究センター がん化学療法看護認定看護師 副看護師長 鈿持 瞳
15:10～16:30	グループ討議 「治療を受ける患者の看護について」
16:20～16:50	発表

平成28年度 小児がん看護研修②

研修目標

1. 終末期にある小児がん患者と家族の看護について説明できる
2. 小児がん患者の晩期合併症・LTFU(長期フォローアップ)について説明できる
3. 小児がん患者の退院支援について説明できる

研修日時:平成29年1月14日(土曜日)9:55~17:00

研修場所:国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

参加者:26施設、39名

職種:看護師(38名)、その他1名

小児がん看護研修② プログラム

時間	内容
10:00~11:00	講義「終末期にある小児がん患者と家族の心理的問題とその介入」 講師：国立成育医療研究センター こころの診療部 田中医師
11:00~12:00	講義「終末期にある小児がん患者と家族の看護」 講師：国立成育医療研究センター 看護師 緩和ケア認定看護師 木須 彩
13:00~13:40	講義「小児がん患者の晩期合併症について」 講師：国立成育医療研究センター 小児がんセンター 医師 清谷 知賀子
13:40~14:20	講義「小児がん長期フォローアップ外来の看護」 講師：国立成育医療研究センター 外来看護師
14:30~15:00	講義「退院支援・復学支援・在宅調整について」 小児がん相談員 ソーシャルワーカー 鈴木 彩
15:00~15:20	講義「チーム医療・他職種連携について」 講師：国立成育医療研究センター 8階西病棟/小児がんセンター外来 看護師 柴田 映子
15:20~16:30	グループ討議 「終末期医療、長期フォローアップにおける困難事例について」
16:30~16:50	発表

小児がん看護研修 アンケート結果

《内容について》

- ・日々、さまざまな小児がん患者と関わっているが改めてそれぞれの疾患について知ることが出来て良かった
- ・小児看護をするにあたり、病名告知、グリーフケア、親との関わり、ターミナル期の環境整備、友人が亡くなった時の子どものケアなど様々な疑問、問題点があり、それを共有できて勉強になった。
- ・どの施設も多くのジレンマや困難さを抱えながら日々模索しているのだと思った。自身だけではなく、児、家族を取り囲む多職種間でのやりとりをどれだけ密にできるかが、ケアの質向上につながる一つの道だと思った。

《今後について》

- ・見学実習などをしてほしい
- ・大変参考になる内容がたくさんあり、今後もこのような機会を小児がんに関わる職種の方々にも広げていってほしいと思う。